

特集◎
自然保育の魅力って？



【図1】

信州やまほいく（信州型自然保育認定制度）とは

保育所・幼稚園・認定こども園・認可外保育施設・野外保育団体など公立私立問わず、さまざまな団体が参加し学びあう、全国初の自然保育の認定制度。平成27年に県が創設し、24項目の認定基準を設ける。信州ならではの特徴的な保育・幼児教育環境を人材育成・財政補助・情報発信の観点から支援する仕組み。

◇特化型認定（響育の山里くじら雲・保育室くまのこ）

質、量ともに自然保育に重点を置いている団体 屋外体験が1週間で合計15時間以上

◇普及型認定（公立認定こども園・野外保育森の子・自由保育所「ひかりの子」）

他のプログラムと併せて自然保育にも積極的な団体 屋外体験が1週間で5時間以上



安曇野の豊かな自然に抱かれ育つ

子どもたちの「人生の根っこ」を育む

子どもの成長において、「自己肯定感や主体性」、「好奇心や想像力」、「コミュニケーション能力や共感力」、「忍耐力や自立心」、「健康な身体と体力」などが十分に育まれるためには、子どもたちの感覚が豊かに刺激される「直接体験」が重要と言われています。

この直接体験は、自然の中で子どもたちが自らの感性で思いきり遊んだり、自然の恵みを使った工作や動植物観察などをする「自然体験」と、伝統文化に触れたり、地域との交流等を通じて暮らす力を育む「生活体験」の両方があります。

私たちの住む信州には、この2つの「直接体験」が経験でき、幼児期の学びとして重要な「五感」を研ぎ澄ますことのできる恵まれた環境があります。

すべての子どもたちに自然と触れ合う体験を
市内の幼児教育の現場では地域にあったさまざまな形で自然保育が実践されています。安曇野の自然が創りだす学びの環境を探ります。



子育てと教育を考える 首長の会を本市で開催

地

域社会における子育てと教育について考え合う首長の会が主催する「第10回記念研究会」が10月4日・5日に開かれ、自治体の首長らが全国各地から集まりました。

今回のテーマは「自然保育」。1日目の基調講演では、明科の野外保育施設「響育の山里くじら雲」代表の依田敬子さんが、園児たちの活動について映像を交えて紹介し、「一般市民を含む160人が熱心に耳を傾けました」。



「信州やまほいく」って？

2日目は、響育の山里くじら雲、西穂高・上川手認定こども園の現地視察や、記念講演としてタレントの清水国明さん（河口湖自然楽校楽校長）を講師に迎え、自然体験活動が子どもたちにもたらす影響などについて講演いただきました。

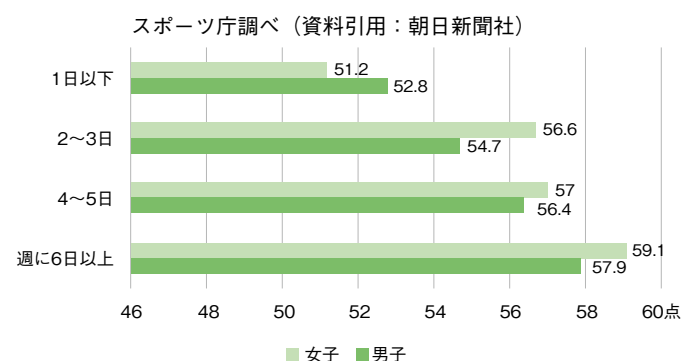
長

野県では、全国に先駆けて「自然保育」の普及に取り組んできました。「自然保育」とは、豊かな自然環境と多様な地域資源を活用し、屋外を中心とするさまざまな体験活動を、積極的に取り入れる保育や幼児教育のことです。

安曇野市でも、公立のすべての認定こども園と野外保育の認可外保育施設が、自然保育に積極的に取り組む園として県の認定を受けています。（図1）



【図2】 小学校入学前の外遊びと10歳児の体力テストの関係



スポーツ庁が発表した「体力・運動能力調査」によると（図2）、外遊びなどで幼児期に体を動かすことは、小学校での運動やスポーツの習慣につながっていることが、明らかにされました。

近年、保育・幼児教育分野を中心に自然保育に関する研究が増えつつあり、幼児期の多様な体験が、その後の学力・運動能力に大きな影響を与えることが広く知られてきています。森と自然を活用した幼児教育への関心が全国的にも高まりつつあります。

園舎裏山で遊ぶ子どもたち
（上川手認定こども園）

